

希望の舞台へ。



石上和弘 (アフターアップル) 2017 第27回UBEビエンナーレ(現代日本彫刻展)での展示風景 撮影:山本備介

# めぐりアート静岡 2020

10/20(火) - 11/8(日) 観覧無料

\*ヒロバのみ 10/17(土)~

東静岡アート&スポーツ/ヒロバ

石上和弘 岩野勝人 千葉広一 日詰明男 福井揚

占部史人 (9/19(土) - 10/11(日))

※上記会期中の金土日及び祝日開催

きむらとしろうじんじん (9/27(日)のみ)

アオキ裕キ (10/31(土)・11/1(日))

静岡県立美術館 静岡市美術館

臼井良平

ワタリドリ計画

<https://megururi.net>   

主催:静岡県立美術館、静岡市美術館、静岡市

運営・問合せ:公益財団法人静岡市文化振興財団 (054-255-4746) (平日8:30~17:30)

 SHIZUOKA

 文化庁

ON  
STAGE  
SHIZUOKA  
まちは劇場

「めぐりアート静岡」は、静岡市内のさまざまな場所を会場に、今を生きるアートを紹介する展覧会です。大学、美術館、市民、行政などによる地域連携の美術展として2013年に始まり8回目を迎えました。2016年度から静岡市が主催者に加わるとともに、JR東静岡駅北口前の市有地、アート&スポーツ／ヒロバを暫定5年間の会場とし、身近な場所で規格外のスケール感、あるいは想像力あふれる作品と出会う機会を提供してきました。本年はその5年目、いよいよ最終年となります。

それに向け準備を開始した3月末から5月にかけて、新型コロナウイルスの感染拡大によって展覧会は開催が見通せない状態になり、いくつかの関連事業も中止せざるをえませんでした。そしてその後の推移のなかで、ヒロバはもとより市内2つの美術館も、様々な対策を講じ、来場者をお迎えできることになりました。

今、私たちはあらためて、人と人との出あいと触れあいの大切さをかみしめています。また、サイトカインストーム(免疫システムの暴走)が身体にとって危険のように、他者への過剰な警戒が、心や社会をむしばみかねないという危険性にも少しずつ気づきはじめています。アーティストは、コロナ禍にあつてなお、心の底からわき上がるさまざまな感情、そして彼・彼女にとって最も大切なこと・興味のあることをカタチにしようとしています。

「めぐりアート静岡 2020」は、この地域との関わりを大切にアーティストとともに、アートプロジェクトというもう一つの日常／非日常、そしてポストコロナに向けた希望の舞台を用意します。

## 東静岡アート&スポーツ／ヒロバ 10/17(土)～11/8(日)

いしがみかずひろ

### 石上和弘

彫刻家 / 静岡市在住



アーティストトーク 10/24(土) 14:00～14:40

1966 静岡県静岡市生まれ  
1991 武蔵野美術大学彫刻学科卒業

主な作家活動

- 2013 「あいちトリエンナーレ2013キッズトリエンナーレ」でワークショップ[私の心が雲に乗る](愛知)
- 2015 「めぐりアート静岡」静岡県立美術館  
「神戸ビエンナーレ アートインコンテナ国際展」準大賞受賞(兵庫)  
(2009,2011年も出品)
- 2017 「第27回UBEビエンナーレ(現代日本彫刻展)」島根県吉賀町賞、市民賞受賞(山口)
- 2018 「めぐりアート静岡」東静岡アート&スポーツ／ヒロバ(静岡)
- 2020 「めぐりアート静岡+」グランシップ(静岡)



《道の作り方》(「めぐりアート静岡2018」)

石上和弘は、おもに木を素材に堅実かつ親しみやすい彫刻を作る。今展は3点の展覧予定である。2017年、第27回UBEビエンナーレ(山口県宇部市)で市民賞ほかを受賞した《アフター・アップル》。2018年の本展出品作《道の作り方》に少し手を加えたもの。そして芭蕉の皮をモチーフとした新作である。迫力ある3点が並び立ち、人々がその間を散策するとき、広い芝生広場がどのような景色に変貌するのか、刮目して待ちたい。

## 東静岡アート&スポーツ／ヒロバ 10/17(土)～11/8(日)

ワークショップ 10/17(土) ※詳細は裏面の関連イベントをご覧ください

いわのまさひと

### 岩野勝人

彫刻家 / 京都府在住



アーティストトーク 10/17(土) 13:00～13:30

1961 徳島県三好郡三加茂町(現、東みよし町)生まれ  
1988 京都市立芸術大学美術学部美術科彫刻専攻卒業  
1990 京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了

主な作家活動

- 2008 「IWANO MASAHITO 現代アートによる徳島再見」徳島県立近代美術館(徳島)
- 2012 「隠岐しおさい芸術祭2012」島根県隠岐郡西ノ島(島根)
- 2014 「Erosion/Transfiguration-侵蝕と変容の先の関係性へ」瑞雲庵(京都)
- 2016.1 「めぐりアート静岡」静岡市美術館(静岡)
- 2016.10 「めぐりアート静岡」東静岡アート&スポーツ／ヒロバ(静岡)  
(以降、'17、'18、'19年も参加)



ワークショップ「色とカタチと空間、そして光」(「めぐりアート静岡2019」)

2016年にスタートした彫刻家・岩野勝人による「コンテナ・アートベース」プロジェクトも足掛け5年、今年度で当初の期間を終了する。これまで、「アートの秘密基地」には人型の座れる真っ赤な彫刻「メンタル・チェア」をはじめ、等身大の「キリン」や「ゴリラ」、「青い人」が次々と登場してきた。今年は、昨年も開催したワークショップ「くもならべ」がパワーアップ。みんなが描いた雲を、作家が大きく立体的な「雲の群れ」にして、アートベース前のヒロバに設置する。